

209 地球映像資料館（その3）：100 年前の日本人の生活 （2023 年 11 月 7 日）

これまでに、銀行家で将来を見据えたアルベール・カーンが 1912 年に立ち上げた[地球映像資料館](#)の中から、日本で撮影された興味深い写真をご紹介します。今回は、約 100 年前の日本の人々と風景を写した写真を取り上げます。

貴重なアーカイブの中で、珍しい写真を見つけました。それは、二人の男性が棒を担いで駕籠（かご）で運ばれる女性が写った写真です（写真右）。[駕籠](#)とは、江戸時代に最もよく使われた乗り物です。写真のキャプションによると、この写真は[箱根](#)の大涌谷で撮影されたものです。箱根峠は、江戸（東京）から京都へ続く東海道の中でも難所と言われてきました。写真に写る駕籠は、山道で人を運搬する山籠だと考えられます。私は、駕籠とは、江戸時代かそれ以前の乗り物というイメージを持っていましたが、20 世紀になっても人々の足として使われていたことを初めて知りました。



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine
District de Hakone, Japon, Palanquin se rendant à Owakudani, A56369XS



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine
Asama-Onsen, environs de Matsumoto, Japon, Sélection des papillons pour la ponte, A56124XS

次にご紹介するのは、長野県松本市にある浅間温泉で撮影された写真です（写真左）。女性たちが、産卵のために蚕を選別している様子が写されています。浅間温泉は、かつては養蚕が盛んに行われていました。当時、日本では各地の山間部で養蚕が行われ、生糸は輸出の主力産品でした。現在この地域では養蚕は行われておらず、当時の人々の生活を写した貴重な写真です。

アーカイブの中には、酒屋を写した写真もありました（写真右）。店の前には、酒樽が積みまれています。酒樽と左端の自転車の間に置かれた箱には「サクラビール」と書かれています。現代の日本語では、横書きの場合はフランス語と同じく左から右へ文字を書きますが、ビールの箱には右から左へ文字が書かれており、時代を感じます。サクラビールとは、1912 年（明治 45）年に福岡県で創業した

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

帝国麦酒（株）が、1942（昭和17）年頃まで製造していたビールです。この頃から日本でビールが製造されていたことに新鮮な驚きを覚えました。軒先に暖簾（のれん）が掛かっており、その上の看板には、「醤油」「味噌」の文字が見えます。酒屋では、醤油や味噌も販売していました。現代では、このような昔ながらの酒屋はほとんど姿を消しました。



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine
Tôkyô, Japon, Epiciers à l'entrée de leur boutique, devant laquelle sont exposés des fûts de bière, de «miso» (pâte de haricots de soja fermentée), de saké et du charbon de bois, A68627X

左下の写真は、写真のキャプションによれば、東京のおそらく玉川地域（現在の東京都世田谷区）の農村を撮影したものとされています。右下は隅田川を撮影した写真です。現在のせわしない東京からは想像もできないような田舎の風景です。



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine
Environs de Tôkyô, Japon, Village, probablement région de la Tamagawa, A56005X



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine
Tôkyô, Japon, Canal de la Sumidagawa, A70766X

一世紀前の日本人の生活は、現代の日本人から見てもとても興味深いものです。今では失われた生活や景色は、カメラという当時の最新の技術のおかげで、現代の私たちが目にすることができる貴重な史料となっています。その時代のありのままの姿を映像と写真で記録することの重要性に気付き、そのために私財を投じたアルベール・カーンの先見性に頭が下がる思いがします。